

今年是全国大会の年 署名・同盟員拡大で前進を



発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034 東京都文京区
湯島2-4-2 全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013 盛岡市安宿町
17-4 牛山靖夫方
T/F 019-623-8648



能登半島地震

能登半島地震被災者支援 顕彰・学習、世代継承と政治変える年に

岩手県本部副会長 庄子春治

自民党のパーティ券裏金疑惑で自民党政治への信頼が地に落ちる中で迎えた2024年は、能登半島地震に日航機と海上保安機の衝突炎上事故と波乱の年明けとなりました。「こんな非常時こそ見えないものを見、聞こえない声を聞く力が求められる」との達増卓也岩手県知事の言葉に力をもりました。「戦争だけではなく二度としてはいけないと心に刻んだ思いを「戦争と暗黒政治を許すな」という国賠同盟の活動に結集するときです。6月には第41回の全国大会が予定されています。岩手県同盟の目標、320人の同盟員、4000筆の署名達成を達成するべく皆さんいっしょに頑張ります。

年にならない穏やかな正月が一転しました。元日の午後4時過ぎに発生した、最大震度7を観測した能登半島地震で、甚大な被害が発生しました。石川県の発表で128人が死亡、安否不明195人、避難所へ避難している方が2万8千人、4市町の孤立集落に2300人が孤立状態にあると報じられています(1月7日現在)。犠牲になられた方々へ哀悼の意を表するとともに、被災さ

▼能登半島地震被災者支援、顕彰・学習、世代継承と政治変える年に 庄子春治▼伝統に恥じない活動を 宍戸春雄▼織田秀雄生誕祭▼指折り数え歌をよむ 牛山靖夫▼この人にこの歌あり⑦鶴彬⑧三田善右衛門と妻の歌▼映画会のお知らせ▼女性部学習会

一寸一言

能登地震被災者支援最優先に
2024年元日、久しぶりの親族と団欒に響いた緊急地震速報と大津波警報、最大震度7の大地震と津波に見舞われた能登半島の映像を見るたびに東日本大震災を思い出す
▼全てを持っていつてしまおう津波と焼き尽くしてしまう火災の恐ろしさ一傾き倒れた建て物の前に立ち尽くす人々に何の手助けもできない事が歯がゆい。食料が、水が、灯油や毛布が足りない、トイレが使えないという被災者の声に今までの大災害の教訓が必ずしも生かされていないと言わざるを得ない▼石川県では自治体の職員が減らされ、職員は疲労困憊し十分な対応がなされていない。岸田首相は年頭記者会見で原発の質問を一方的に打ち切り、その後に出演した民放番組では自身の総裁選や軍事力の強化、改憲を口にしたという。岸田首相には自身の保身と米国の意向しか見えていない事がますます露呈した▼災害多発国の現状と国民の苦難に心を寄せるなら、軍事費の拡大よりも防災や災害関連死を防ぐ対策、復興に最大の力を注ぐべきである。行方不明者の救出、助かった命を見捨てない長い復興への道のり、出来ることに取り組みながら誰が国民の味方なのかをしっかりと見極めていきたい。(D)



れた方々に心よりお見舞い申し上げます。

石川県は、反戦川柳人の鶴彬の出身地です。生を受けた石川県かほく市高松の浄専寺には2018年に没後80年を記念して、盛岡市の光照寺から分骨して墓碑が建てられています。お見舞いの電話をしたところ、かほく市全体では大きな被害があったものの、鶴彬生家、句碑、墓碑、光専寺等ほとんど被害がないとのことですが、被災地への支援に同盟としても力を入れたいと思います。

鶴彬を、小林多喜二を、伊藤千代子らを獄中で死に至らしめた治安維持法制定から来年・2025年3月で100年を迎えます。2024年のこの一年は、同盟の目的実現へ大きな節目としなければならないと思います。岸田政権のもとで、8兆円超の大軍拡予算で戦争国家づくりが進む中、再び戦争と暗黒政治を許さないをスローガンにかかげる同盟の役割はとても大きいと思います。

治安維持法の弾圧と戦った先人たちを顕彰し学ぶ活動、同盟の活動の世代継承など、皆さんと力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。

そして、今年予想される衆議院選挙を、大きなチャンスととらえて全力を挙げたいと思います。「治安維持法と現代」20

23年秋号で、犠牲者の菱谷良一さん（当時101才、生活図画事件の被害者）と対談した憲法学者小林節氏は、（政府に謝罪し賠償を行わせることについて）

「（菱谷さんたちの被害は）人道に対する罪であり、どこかできちんと償うべきだ」「責任者は日本国という永久不

滅の法 人格ですから時効の問題ありません」として「裁判で勝つのは難しいですが、政治的に勝つ方法は残っている」、政権を変えることだと述べています。

経済無策に戦争国家づくり、そして裏金疑惑の自民党政治そのものが末期状況のもと、自公政治を終わらせ、同盟の目標を大きく前進させる年にするため、皆さんと力を合わせたいと思います。よろしくお願いいたします。

伝統に恥ない活動を

胆江支部 支部長 矢野 春雄

古代胆沢江刺の地を「日高見国」といった。アテルイ、モレたちは中央集権の侵略に抗して国の自主独立を守るために闘った。謀略の如くして捕らえられ処刑された。

藩政時代、仙台藩の侍たちは不正と強権を用い百姓を搾りあげた。里山伏・正覚坊はおよそ10万の百姓たちの頭人として一揆を指導し、仙台藩の農政を変えた。そして江刺清三郎と共に捕らえられ処刑された。今も義民と讃えられ百姓たちに崇敬されている。

幕末。高野長英は、「日本の夜明け」のために潜行千里、不屈に生きその生涯を万民のために捧げた。

現代。日本は富国強兵、天皇制国家、侵略覇権の道を歩みだしている。若き代用教員織田秀雄は、詩「通信簿」で／忠君愛国 甲の上／：おいらをだます通信簿／そんなものには 用はない／と詠って皇国民教育、選別評価の教育に決別の宣言

をした。悪法「治安維持法」は秀雄を捕らえ実刑判決。獄中病弱の身となり、世に出ても職を得られず貧困と弱体に文芸の道をも閉ざされた。若くして生涯を終る。

その後秀雄と共に歩み、あるいはその影響を受けた多くの人々は平和と民主主義のための活動に生きた。織田秀雄を「治安維持法」犠牲者胆江1号とすれば胆江地区には17号までの犠牲者がいる。

最後の17号は戦後も民間教育運動の指導者として絶大な貢献をしたナガイ・ショージである。退職後は日中友好、ベトナム友好、高野長英顕彰会、水沢子どもを守る会、など数多くの活動、市政の民主化のための請願活動など目を見張る活動を展開した。自ら影響を受けた織田秀雄の業績の掘り起こしと顕彰活動、そして顕彰碑建立を訴え募金活動も手掛け志半ばで世を去った。

これを引き継いだのが現在の「国賠同盟」胆江支部の諸人である。

胆江・江刺はこのように古代から自主独立のために不屈の生きた人を多く輩出した。この伝統に恥じない活動をするのが現在の私たちの使命であると心に刻んでいる。今年もみなさんの教えと叱咤を受けながら活動していきたいと思っている。

大きくホラのような決意を書きましたが、よろしく願います。



「方言あてクイズ」でプレゼントをゲット

「織田秀雄生誕祭」賑やかに開催

「鬼六と大工」の読み聞かせと

「方言あてクイズ」

子ども達の参加に会場が沸く

11月23日、上笹森交流館で行われた「織田秀雄生誕祭」は、上笹森地区から子ども11人を含む25人、同盟その他を合わせ全体で37人が参加して、例年になく会場は若やいだ雰囲気の中で賑やかに開催されました。

最初に、織田秀雄が蒐集した金ヶ崎町に伝わる民話「鬼六と大工」（再話／松井直・画／赤羽末吉）を小学校などで読み聞かせのボランティア活動をしている菊地礼子さんが朗読。その迫力ある語り会場は大きく盛り上がりました。

次に、秀雄がこだわり続けた生活の中で使われていた「方言」について、実戸春雄さんがユーモアたっぷりに解説・講演。「方言あてクイズ」ゲームでは、子ども達に振興会から正解者にプレゼントが用意され、楽しい学びの場になりました。

上笹森交流館には、織田秀雄の写真パネルを常設して貰っていますが、今回の生誕祭の準備から参加呼びかけまで地

区振興会に大変お世話になりました。感謝です。わずかでも織田秀雄についての認知度を高める機会になったのではないかと期待するところです。
最後に墓前に赴き、焼香・献花して今年の生誕祭を終えました。

【「不屈」胆江版NO75 12月15日号より】

「織田秀雄」発掘・顕彰「扇状地」から(6) 「織田秀雄の笑い」 柏崎栄

矢野先生の
耳袋

拾い書きI

大沢温泉の自炊部から、川を渡って停車場の方へ行く途中、雪の坂道に湧き水を徳利の口から―小便小僧のよう―におとしているところがあった。立ち止まって見ていた織田秀雄は「無くならないなあ」と言った。そして我に返ったように「子どもはそう思うだろうなあ」と微笑した。童心で物を見る。童謡作家らしいと思うのだった。

コタツで語った言葉の中で、担任した子ども達の卒業式には泣けてくるといったのは、大内実だったか、私だったか忘れてしまったが、織田はそうでなくても泣けてならないと言っていた。情感の豊かさを示すものだろうか。二十二、三才の頃だった。

この三人はいずれも治安維持法違反でとらえられた人たちである。こんな子ども思いの教師たちであった。3人は親しかったのだ。大内実とは織田秀雄と水農同級生、同じ笹森出身、いい人たちだった。(矢野)

【「不屈」胆江版 NO74より】

《同盟文芸》「不屈」中央版より

指折り数え 歌をよむ

岩手県本部長 牛山 靖夫

「不屈」中央版に短歌を投稿してきた。次の10首が掲載された。

戦争と暗黒政治を許すなと同盟の旗秋風に立つ

(22年12月)

新春の集いで会うのをたのしみに白い杖つき雪道急ぐ

(23年2月)

3・15大弾圧を忘れるな覚えていろと多喜三の呻き

(23年3月)

咲きほこる千代子の墓のタンポポよ種子(たね)を飛ばそう
高く遠くへ

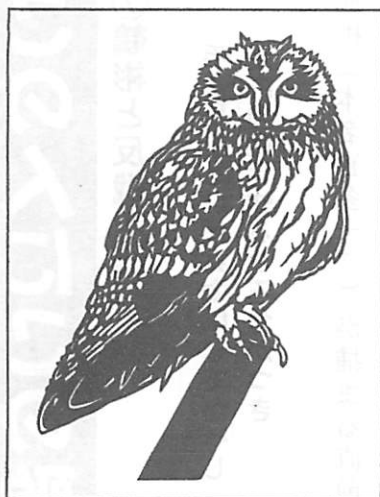
(23年5月)

朝焼けの空仰ぎ見て口ずさむ若き日の歌今も忘れず

(23年7月)

八月の雲の墓標に亡父(チチ)の声二度と戦(いくさ)はし
てはならぬと

(23年8月)



啄木にとって短歌は「悲しき玩具」だった。私は啄木の歌集や万葉集は好きだが、短歌をつくり、新聞に投稿するのは初めて。それも「たはむれ」に「指折り数えて」つくった短歌である。

見様見真似で始めたのにはわけ（理由）がある。一つは文章の読み書きができなくなったからだ。眼の網膜を壊して3年になる（黄斑変性）。次第に視力が弱くなり、拡大鏡で文字を読むのも止めることにした。読めないと言えない、長い報告講話もできない。それでも「三十一文字」なら何かできないかと主に同盟活動をテーマに始めてみた。

もう一つは、同盟には私と同じように、年をとって病気になる、たり体の調子が悪く

切り絵・牛山靖夫「ウミズク」

暁に奮闘くはいつの日か鶴彬忌に思いはつる

（23年9月）

同盟が語る不屈の歴史こそ共産党の戦前史なり

（23年10月）

かえりみて治安維持法犠牲者の年の若さよ熱き心よ

（23年11月）

啄木の故郷なればたはむれに指折り数え歌よんでみる

（23年12月）

なったり、昔のように活動できなくなったなかまは少なくない。そこで、やれることをやっという仲間へのエールになればと思っている。こうして同盟活動を31字に圧縮して語るようになった。

手さぐりの活動だが、1年間続けてくると、近頃は励ましの声をかけてくれる仲間もいるからありがたい。



今年こそ署名4000筆の達成を！

署名は少しずつ集まっていますが、まだ300筆を超えたくらいで目標の1割に達していない状況です。戦争の足音が高まっている現在、「戦争と暗黒政治を許すな」を訴えぬき署名に多くの人々の思いを結集させましょう。1筆でも2筆でも構いません。お手元にある署名用紙にご自分の分、ご家族の分だけでも記入して送ってください。署名用紙が足りなくなった場合は送りますのでご連絡ください。コピーでもかまいません。

送付・連絡先

020-0105 盛岡市北松園4-21-7

田中館安子 090-9743-6123

会費・カンパの納入

ご協力ありがとうございます。

まだの方はぜひ納入にご協力くださいますようお願い致します。

この人についての歌あり

⑦ 鶴彬と反戦川柳

手と足をもいだ丸太にしてかへし
胎内の動き知るころ骨がつき

鶴彬（本名喜多一二）が捕まる直前に
「川柳人」に発表した6句が最後の作品と
なった。



高粱の実りへ戦車と靴の鉄
屍のあないニュースで勇ましい
出征の門標があつてがらんだうの小店
万歳とあけていった手を大陸において来た
手と足をもいだ丸太にしてかへし
胎内の動き知るころ骨がつき

1937年（昭和12）、日本が中国と全面侵略していった日
中戦争真っ最中の作品である。今と違って、「ロシアはウクラ
イナ侵略をやめろ」「岸田内閣の大軍拡反対」を訴え、デモや
集会ができる時代ではなかった。生命がけの反戦川柳である。

鶴彬は拷問で身体を壊し、赤痢に罹ったのか患けられたのか、
斃死した。遺骨は盛岡で染物屋をしていたあにが引き取り葬つ
た。だから墓は盛岡の光照寺にある。

生前、鶴彬は特高に追われて「殺される。助けてくれ」と盛
岡に来たことがある。だから兄は「弟は殺された」と思ってい
た。

戦後、鶴彬を世に出すために川柳や評論の全集をまとめた一
人に一叩人（命尾小太郎）がいる。年表の最後に墓所を記す）
としたが、場所がわからない。漸く盛岡にたどり着き、「ここ
にいたのか。10年さがしたんだよ」と墓にすがりついて涙した
という。1977年のことだ（テキスト48P解説編）。

犠牲者のことは戦前よりもより、戦後も長い間、誰もが口を
閉ざして語ろうとしなかった。誰もが口を閉ざして語ろうと
しなかった。長野の伊藤千代子も同じだった。そうして中でも
歴史の闇を掘り起こす地道な活動をした人たちの努力によって、
今私たちは「不屈のたたかい」を知ることができる。

鶴彬は友人への手紙に「失職すると啄木が兄のやうに思れま
す」と書くほど啄木を慕っていた。弾圧のため未完に終わった評
論「石川啄木と井上剣花坊」をみると、歌集だけでなく、詩集、
評論、日記や手紙など当時出版されていたものはすべて読んで
いる。さらに中野重治、渡辺順三、宮本顕治といった人たちの
文芸評論も学んだうえで、啄木論を展開している。

冒頭の6句、とりわけ「手と足を」の句が強烈なことから、
鶴彬は反戦川柳人とされている。しかし本人はプロレタリア川
柳を主唱していた。苛酷な労働を強いられる女工や朝鮮人労働
者の川柳もあれば、特高の弾圧を告発したものもある。鶴彬の
啄木論をふくむ作品全体を学ぶことが求められる。

暁を抱いて闇にゐる蕾
枯れ芝よ団結をして春を待つ



この人についての歌あり

⑧三田善右衛門と妻の歌

戦争を許す勿れと今日も行く／語り部となりて講演の場へ

花巻の犠牲者の一人、三田善右衛門の妻照子は2017年に99歳で亡くなるまで宗教者9条の会などで活動した。自分の生命は「生かされた生命」だと、1961年に49才で病死した夫の遺志をうけつぎ、中国での戦争体験を語り、平和を訴えた。その活動を「戦争を許す勿れと今日も行く／語り部となりて講演の場へ」と詠んだ。

さらに90歳を過ぎてから縁あって国賠同盟の会員となった。夫は結婚する前に治安維持法で大変な目に遭っていたが、そのことを生涯一言も語らなかった。なにかあったのか知りたいというのが入会の動機だった。

三田の治安維持法による弾圧事件とは1933年の盛岡消費組合事件のことだが、照子の弟の石塚知二が2002年に『あふれる愛を勇気の記録―大愚・三田善右衛門の生涯―』を著し、弾圧事件を詳細にまとめている。石塚は国賠同盟山形県本部の副会長であった。



三田善右衛門

三田は盛岡中学校で社会科学研究会に参加し、卒業すると花巻で古本屋を始めた。また仲間とマルクス主義研究会をつくった。盛岡で池田泰治、前田正孝、昆国雄らが全協Ⅱ日本労働組合全国協議会を再建をめざして消

費組合の準備をはじめると、花巻でも盛岡をとって活動した。

1933年三陸大津波が襲来。大橋初郎が被災者救援活動中に検挙され、花巻署にタライ回しにされて来ると、三田は「頑張れ」と書いた薄紙を針金に巻いて差し込んだバナナを差し入れた。その直後の5月、盛岡消費組合の関係者をはじめ全県で50人が治安維持法で検挙され、前田正孝、昆国雄、三田善右衛門、柳館与吉、上田重彦ら8人が送検された。（テキスト161P・解説編40P）。

1993年は全国でも岩手でも弾圧がピークであった。

①拷問 2月22日小林多喜二が検挙され、即日虐殺された。岩手でも拷問は年々激化。池田と三田は瀕死の重態となり仮出所したが、池田は送検前に19才5か月で病死した。三田は家族の懸命の看護で一命を取り留めたが、1年半も立つことができなかった。

②スパイ この年の12月、野呂栄太郎と宮本顕治がスパイの手引きで検挙された。盛岡消費組合事件も全協と共産党の中央に潜入したスパイ小畑の策謀で、盛岡の活動家に「赤旗」（セツキ）をすすめる一網打尽をはかったものだった。

その後三田は満州に渡り、山形県鶴岡出身の照子と結婚した。二人の活動と敗戦時の混乱、帰国後の引揚者支援の活動など、治安維持法犠牲者だった三田の戦中戦後の生き方については、是非テキストで学んでいただきたい。

感想・原稿大募集

読みたくなる「不屈」を目指しています。率直な感想・意見をお寄せください。また、作品・原稿もどんどんお寄せください。

映画会のお知らせ

武器なき斗い

監督 山本薩夫 (独立プロ)



1929年、政府の治安維持法にただ一人反対し、右翼の凶刃に倒れた労農党代議士、ヤマセンこと山本宣治の人間味溢れる生涯を描く。



2月23日(金) 13:30~16:00
(上映時間140分)

盛岡市中央公民館 大会議室

入場料無料 主催：国賠同盟岩手県本部

連絡先：田中館安子 090-9743-6123

廃墟と化した鉄の町 釜石艦砲射撃の記録

企画・製作・監督 都鳥伸也

3月23日(土)

アイーナ 小田島組ホール

①10:30開場10:30上映

②13:30開場14:00上映

一般 前売り1000円(当日1200円)

小中大学生 500円(前売り・当日共通)

お問い合わせ 019-684-2225(岩手生協連)

090-9743-6123(田中館)

国賠同盟も実行委員会に参加しています。

ぜひとも成功させましょう。

「わが青春つきるとも ～伊藤千代子の生涯～」

1月8日(月) 九戸村公民館

1月13日(土) 二戸市シビックセンター

1月14日(日) 軽米文化交流センター

いずれも13:30～連絡先090-7338-3050(久保)

一昨年県内5会場で上映され感動を呼んだ作品です。全国では500会場9万人が鑑賞しています。上映条件が緩和され、10人から数十人単位での上映会が可能になりました。草の根上映会を呼びかけています。あなたの町でも上映会を計画しませんか。

連絡先 090-2958-9323(村上)

090-9743-6123(田中館)

12月19日(火) 女性部学習会 7名参加

「治安維持法と現代」2023秋季号の巻頭の3論文を読み合いました。

「歯止めなき軍事国家日本を憂う—いまこそ歴史の教訓を踏まえるべき時」 額田 厚

「敵基地攻撃」能力の危険なくらみ＝それは日本に何をもちたか＝実質改憲に突き進む

岸田政権のたくらみを暴く」 五十嵐 仁

「大軍拡・敵基地攻撃能力など—防衛政策の大転換」 末浪 靖司

日本はまさしく「新しい戦前」である、もはや戦中だと言った人もいました。その現実がひしひしと伝わってきました。パーティ券で何億という裏金をため込んできた自民党が大企業と結んで戦争で金もうけをしようとしている…「金持ちたちが戦争を起こし貧乏人が死ぬ」ことを許してはならない。軍拡は日本の滅亡への道であることを誰でもわかるように訴えたいと思いました。(田中館安子)

次回 女性部学習会
1月30日(火) 13:30~15:30
盛岡市中央公民館